

ポップカルチャーに関する分科会（第2回）の主なご発言

（樹林委員）

- ・ アニメの制作現場の労働環境など、まずネガティブな要素を改善することが必要。
- ・ メーカーがクリエイターなど現場の項を聞いて製品開発を行うべき。
- ・ ポップカルチャーを取り入れた飴細工など、伝統とポップカルチャーを融合した取組を進めていくべき。

（齋藤委員）

- ・ ポップカルチャーについて、インターネット上でチェックできる窓口の設置や、関連従事者の就労環境の改善、権威ある褒章制度、特区の設置、聖地の形成などを検討すべき。

（河瀬委員）

- ・ 地方の優れた映画祭を1地方にとどまらず、海外に向けて自信をもって発信することが必要。
- ・ 映画の国際共同製作支援について、予算の単年度主義にしばられるのではなく、複数年度かけて製作できるようにするなど柔軟な制度とすることが必要。

（中村議長） 御自身の提案として、以下を発言。

- ・ ポップカルチャーが世界に飛び出す発信力を強化するため、「みんなで（参加）」「つながって（融合）」「そだてる（育成）」ことが必要。

ポップカルチャーに関する分科会についてのポイントは以下の2点

- ・ 中村議長が示し「参加」、「融合」、「育成」という3つのキーワードで議論をとりまとめることで概ね賛同が得られたこと。
- ・ 提言の作成については、中村議長に一任されたこと。